

11 学内インターンシップ（インターンシップⅢ）

開講年次：博士課程前期過程 1 回生後期

[ゲスト講評者]：岩田章吾（武庫川女子大学教授） 積水ハウス（株）設計者、開発部、技術部

[担当講師]：遠藤秀平、槻橋修、福岡孝則、木上理恵

[ゲストレクチャー]：畑中久美子（岐阜市立女子短期大学専任講師 / 畑中久美子デザイン室）

郡裕美（東京理科大学工学部建築学科講師 / スタジオ宙一級建築士事務所）

A. コーポラティブハウス

積水ハウスの近郊住宅開発地（神戸市近郊）を対象に、コーポラティブ型の住宅の構想・計画（工業化住宅4～8棟分、街区等設定自由）のコンセプトに基づいて工業化住宅設計手法を活用したコーポラティブ住宅（地）を設計する。「これからの住環境を考える」のテーマに沿ってエネルギー、コミュニティ、安全・安心、ランドスケープ、新しい住まじ方（多世代やシェア）を想定したユニークな新しい住まじ方を構想する。

B. 工業化住宅のリノベーション

積水ハウスの工業化住宅を対象としたリノベーション設計課題。減築・環境・コミュニティ・ランドスケープ等に目を向けながらどのようにリノベーションしていくのか基本構想から具体的な設計提案まで行う。

シングルマザーのためのシェアハウス（課題 A）

中村未明

同じような境遇のシングルマザーが、集まり、助け合いながら生活するシェアハウスの提案。子どもを庭のある大きな家でのびのびと育てたい、という母親の気持ちと、子どもたちが楽しめる家、という双方を叶えた家。



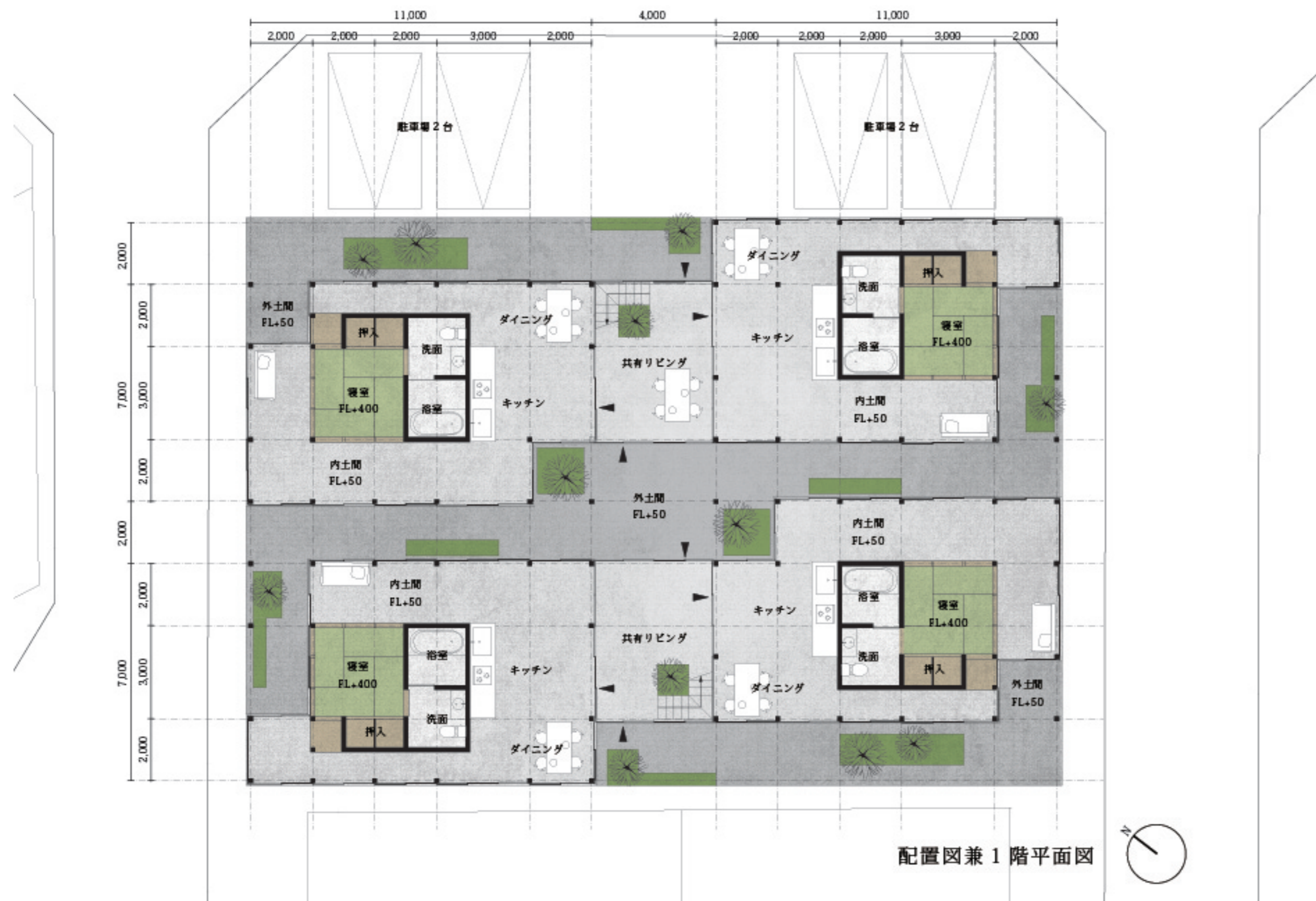
若者と高齢者が住まう土間のある家（課題 A）

安田諭史

若者と高齢者が共に住まうことで生まれる新たな郊外住宅地の暮らしを描いた。まちや街路とつながるインターフェイスとして「内土間」と「外土間」を提案し、住人達は回遊しながら四季折々の心地よい居場所を見つけ、生活を楽しむ。

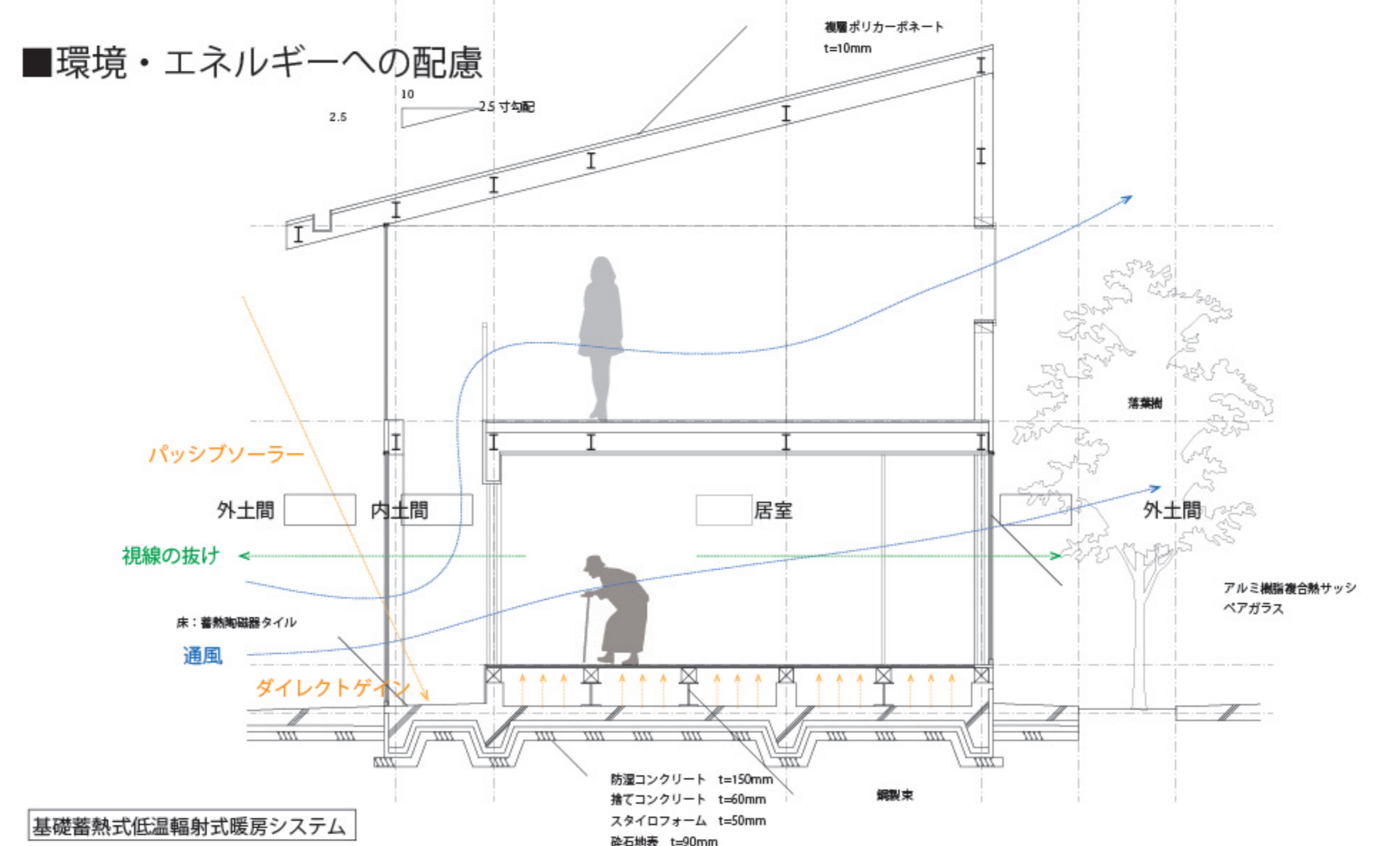
■内土間と外土間 / ズレと間合い

「室」が入れ子状にずれながら点在し、「余白」として残された多様な「土間」空間がおおらかな一室空間を形成します。「余白」は空間を重ねるように「ウチとソト」を曖昧にし、間合いをもたらします。そして「内土間」と「外土間」は「室」とつながり、一体的に使われ、様々な行為を許容しながら、空間に広がりをもたらします。



■若者と高齢者が共に住まう

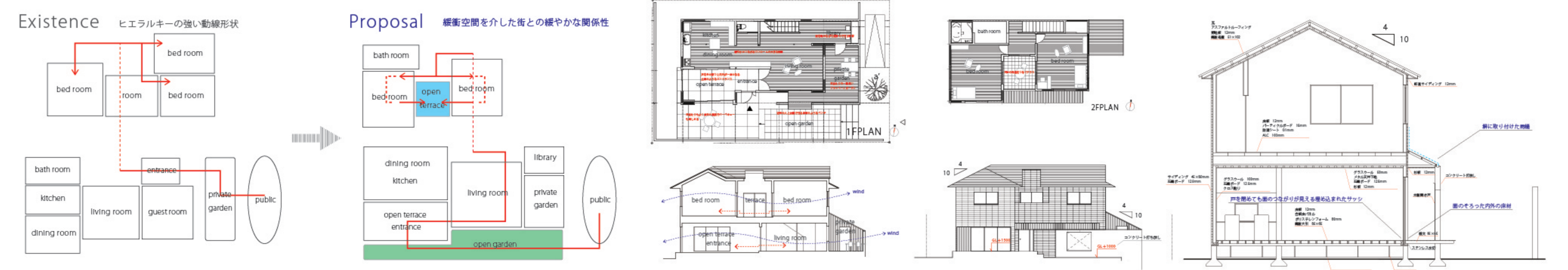
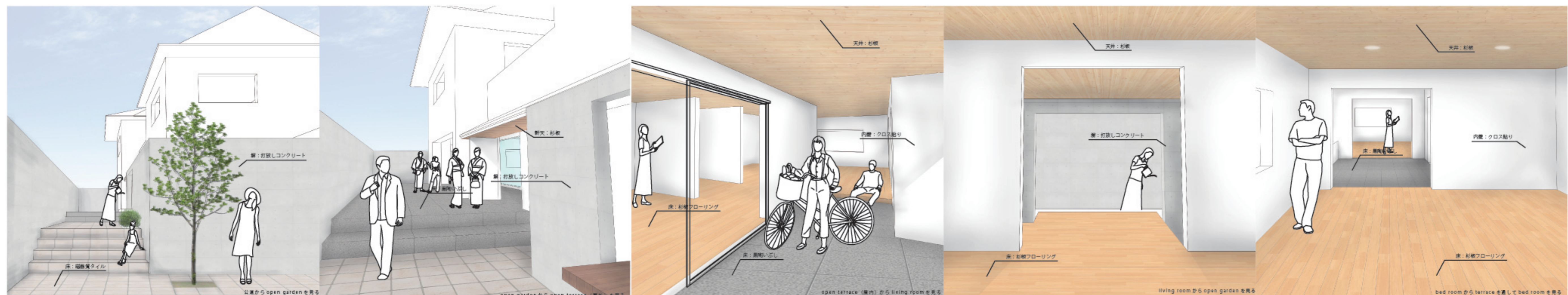
…高齢者の暮らしを見守る（防犯、安心・安全）
…内外が連続する外部環境を楽しむ暮らし（まちや社会とのつながり）



関係性のリノベーション - 「空間」から「場所」へ - (課題 B)

大野晴臣

道に対するアプローチと各室の動線や視線の関係性を組みなおすことにより独立性の強かったそれぞれ既存の「空間」を住まう人にとって実存的空間である「場所」とするべく空間の形式を再構成するリノベーションを行った。また各室の関係を顕在化するようなミニマルなディテールの設計を行った。



講評会、レクチャーの様子